

令和五年度 垣生中俳句会（六月） 入賞作品

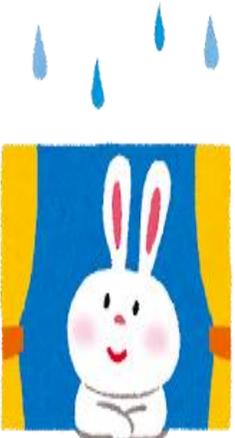
金賞

梅雨籠り新刊はまだ買わぬまま

三年

梅雨明け後に前線ができる場合を「戻り梅雨」と言い、その時期、人々は外出を控え家に閉じこもりがちになります。厳密にはこれを「梅雨籠り」といいます。

現在、松山は梅雨真っ只中で、自宅に籠りがちの人も多いでしょう。「梅雨」という季語を使った句は非常に多かったのですが、「梅雨籠り」という季語に作者は挑戦しました。雨音を聞きながらの読書も乙なもの。新刊を読みたい気持ちはあるものの、外出は億劫で手元の本から片付けようというのでしょいか。「取り合わせの俳句」のお手本です。先生方の支持も非常に多かったのも分かる気がします。



銀賞

シャーペンを持つ手汗ばむ小テスト

三年

期末テストも近づき、授業内容もそのための振り返り、小テストなどが増えてくる頃ですね。どんなテストでも「テスト」は緊張するもの。梅雨の湿度の高さと相まって、手に汗握りながら真摯にテストに向き合っている姿がうかがえ、好感が持てます。言いたいことを十七音の音律にきちっと収めた技も見事です。



銀賞

梅雨入りのニュース散髪予約する 三年

うつとうしい梅雨入りを歓迎する人は少ないでしょう。でも、だからこそ散髪をして気持ちだけでも爽やかに・・・という前向きな作者の心持ちがいいですね。「散髪予約」という語で、具体性を持たせたことで、読む側に状況を想像するきっかけを提示できたことが秀逸です。

銅賞

夏来るエアコン掃除の日曜日 二年

初句で潔く切ったことで、韻律がすっきり整いました。中学生の作者も家族の一員として、エアコンの掃除を手伝っているのでしょう。手伝わされているというマイナスな気持ちより、家族みんなで協力してエアコンの準備をして、猛暑に備えようという意気が感じられます。体言止めもその意気を支えています。

銅賞

梅雨晴と遊ぶ妹クロックス 二年

「梅雨晴れに」としなかったところに、この句の独自性が際立ちます。鮮やかな色のクロックスを履いた妹が、梅雨の晴れ間に、その時間を無邪気に心から楽しんでいく様が伝わってきます。ちよつとした助詞などの使い方の工夫を、先月の号で記載しましたが、それを生かして作句してくれたのだとしたら選者冥利に尽きます。

銅賞

五月雨や服装決まらぬ休暇かな 三年

「五月雨」は梅雨の時期に降る雨のこと、「さみだれ」と読みます。熟字訓を学習した三年生なら難なく読めますよね。「五月雨を集めて早し最上川」という芭蕉の句でよく知られた季語ですが、「梅雨の雨」などと平凡すぎる季語を避けたために、洗練された句に仕上がりました。「梅雨寒」というように梅雨の時期はまだ暑さ寒さが安定せず、その日着ていく服装に悩むことにも多くの共感を得たでしょう。

入選

妹とみかんゼリー夏の夜	一年
帰り道甘い香りの枇杷がある	一年
夏服が早く来ないか待ち遠しい	一年
妹と星空ながめる梅雨晴れ間	一年
空豆の味はそんなに好きじゃない	二年
夏服に衣替えるみどり色	二年
新しい母の日傘は星模様	二年
ハンガーに夏服かける夏気分	二年
あまずつぱい祖母から届いた枇杷の味	二年
風にゆれ涼しげに咲く母の薔薇	二年
雲の峰もくもくもくもく雲生きる	三年
鹿の子が集まる先に鹿せんべい	三年
風鈴の音を聞いて思うこと	三年
梅の実に氷砂糖が溶けていく	三年

